

国内債券通貨プラス

愛称：秀債くん

追加型投信／内外／資産複合／特殊型

2022年2月15日に満期償還となる予定です。

作成対象期間：2021年2月16日～2021年8月16日

第109期決算日：2021年3月15日 第112期決算日：2021年6月15日

第110期決算日：2021年4月15日 第113期決算日：2021年7月15日

第111期決算日：2021年5月17日 第114期決算日：2021年8月16日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは安定運用部分において三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券を通じてわが国の公社債に投資を行うとともに、プラスアルファ部分において世界各国の通貨へ投資を行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第114期末 (2021年8月16日)

基準価額 9,309円

純資産総額 1,301百万円

第109期～第114期

騰落率 +0.5%

分配金合計(*) 6円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  0120-151034

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第109期～第114期：2021年2月16日～2021年8月16日

▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



| | |
|--------|-------------|
| 第109期首 | 9,270円 |
| 第114期末 | 9,309円 |
| 既払分配金 | 6円 |
| 騰落率 | 0.5% |
| | (分配金再投資ベース) |

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ0.5%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

> 基準価額の主な変動要因**上昇要因**

プラスアルファ部分（通貨戦略運用部分）は、計量分析による通貨投資戦略が奏功したことから基準価額にプラスに寄与しました。

2021年2月16日～2021年8月16日

1万口当たりの費用明細

| 項目 | 第109期～第114期 | | 項目の概要 |
|-----------|-------------|---------|--|
| | 金額 (円) | 比率 (%) | |
| (a) 信託報酬 | 66 | 0.712 | (a)信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率×(作成期中の日数÷年間日数) |
| （投信会社） | (18) | (0.192) | ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 |
| （販売会社） | (46) | (0.493) | 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受託会社） | (3) | (0.027) | ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (b) その他費用 | 0 | 0.002 | (b)その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数 |
| （保管費用） | (0) | (0.000) | 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 |
| （監査費用） | (0) | (0.002) | ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用 |
| （その他） | (0) | (0.000) | 信託事務の処理等に要するその他諸費用 |
| 合 計 | 66 | 0.714 | |

作成期中の平均基準価額は、9,317円です。

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

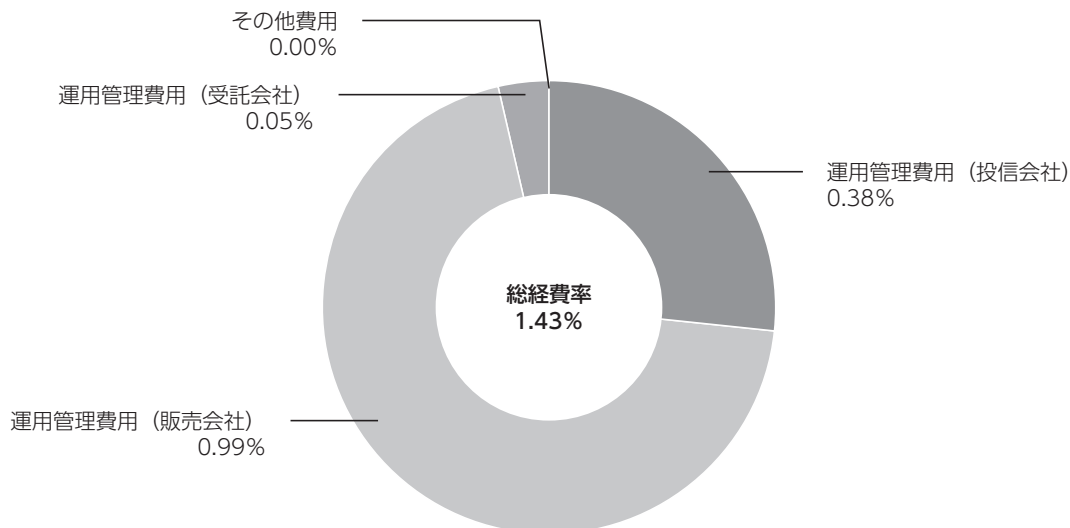
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.43%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

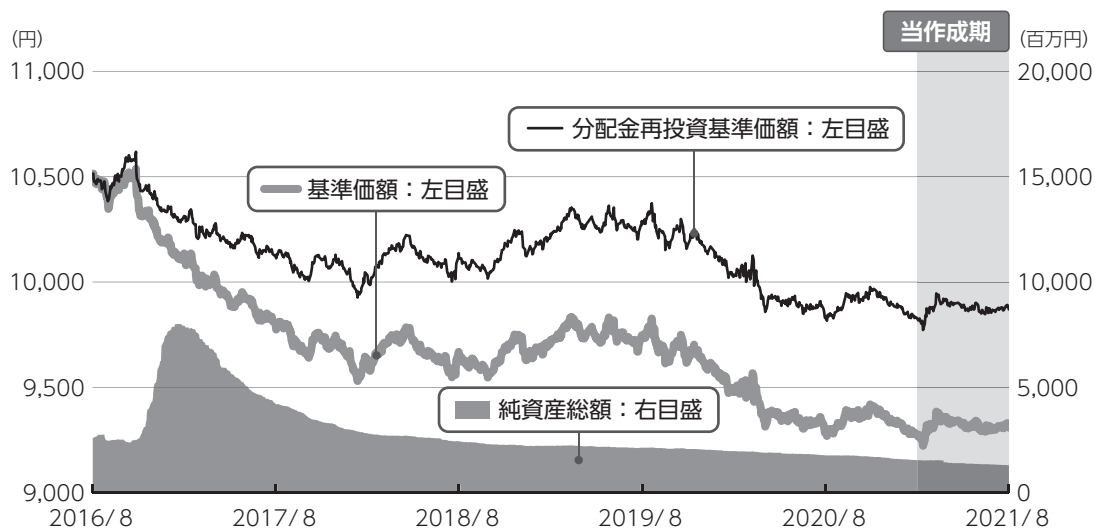
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2016年8月15日～2021年8月16日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、2016年8月15日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

| | 2016/8/15 期初 | 2017/8/15 決算日 | 2018/8/15 決算日 | 2019/8/15 決算日 | 2020/8/17 決算日 | 2021/8/16 決算日 |
|-------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 基準価額 (円) | 10,514 | 9,789 | 9,669 | 9,747 | 9,278 | 9,309 |
| 期間分配金合計 (税込み) (円) | — | 345 | 129 | 66 | 30 | 12 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | -3.7 | 0.1 | 1.5 | -4.5 | 0.5 |
| 純資産総額 (百万円) | 2,608 | 4,214 | 2,443 | 2,136 | 1,775 | 1,301 |

※ファンド年間騰落率は、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第109期～第114期：2021年2月16日～2021年8月16日

投資環境について

▶ 債券市況

国内金利は低下しました。

国内金利は、当作成期首から2021年2月末にかけては、米国金利の上昇や日銀による金融緩和の点検に対する警戒感などから上昇傾向となりました。3月以降は、米国金利の低下等を背景に国内金利は低下傾向となりました。

▶ 為替市況

主な通貨の値動きは、騰落率が高い通貨から順に米ドル、英ポンド、スイスフラン、ユーロ、円、オーストラリアドルとなりました。

ユーロは、期首から2021年5月にかけては域内の新型コロナウイルスワクチン接種進展に伴う経済正常化への期待などから上昇しました。6月以降は、欧州での新型コロナウイルス変異株の感染拡大などを背景に軟調となりましたが、当作成期間では対円で上昇となりました。

米ドルは、米国長期金利上昇などを背景に期首から3月にかけて対円で上昇しました。4月以降は、長期金利の低下などから対円で下落する局面があったものの、利上げ予想時期の前倒しを示されたことなどを背景に概ね堅調となり、当作成期間では対円で上昇となりました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 国内債券通貨プラス

プラスアルファ部分（通貨戦略運用部分）

通貨配分および通貨への実質投資比率は、「金利水準」「市況動向」「割安度」および「通貨市場のリスク水準」の観点から、計量分析によって算出される各通貨の魅力度を基に決定しました。

当作成期間を通じての主な通貨配分については、金利水準や割安度の面で魅力度が高いと判定された米ドルなどを買建てとし、金利水準や割安度の面で魅力度が低いと判定されたスイスフランなどを売り建てとしました。

プラス要因

英ポンドは、主に買建てとした期首から2021年3月にかけて、同国における新

型コロナウイルスのワクチン接種が相対的に先行していることなどを受けた早期景気回復に対する期待などを背景に対円で上昇し、基準価額にプラスに寄与しました。

マイナス要因

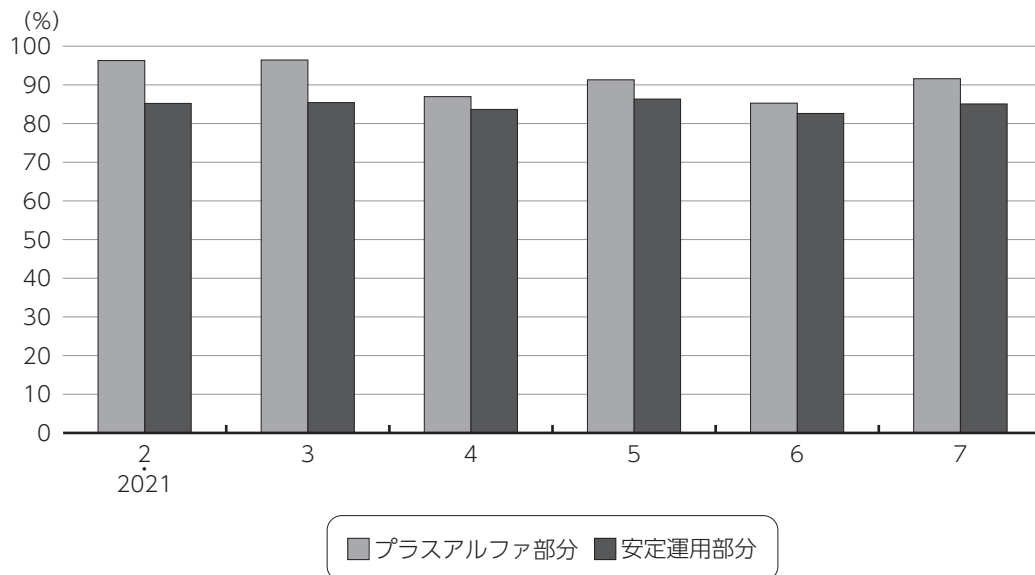
当作成期間を通じて主に売り建てとしたスイスフランは、新型コロナウイルスのワクチン接種進展に伴う経済正常化への期待などから4月から5月にかけて欧州通貨が堅調となったことなどから基準価額にマイナスに影響しました。

安定運用部分（国内債券運用部分）

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券への投資を通じて、国内債券への実質投資を行いました。

(ご参考)

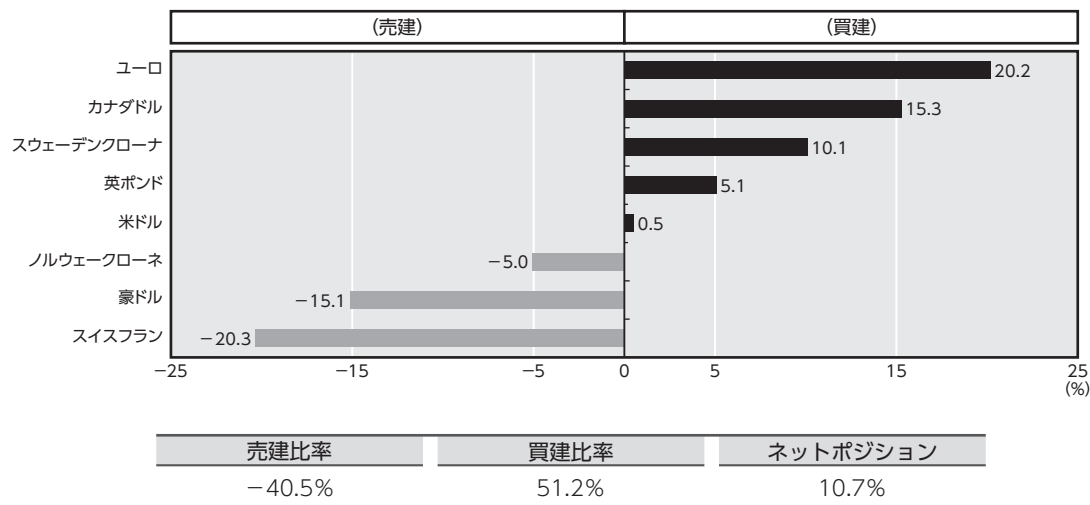
■投資配分の推移（月末ベース）



- ・比率は、「国内債券通貨プラス」の純資産総額に対する割合です。
- ・プラスアルファ部分は、新興国を含む世界各国の通貨に0～100%の範囲で投資します。
- ・プラスアルファ部分は、通貨別組入比率における買建比率と売建比率（絶対値）の合計です。
- ・安定運用部分は、国内債券に50～100%の範囲で投資します。
- ・安定運用部分には経過利子を含めて表示しています。

(ご参考)

■プラスアルファ部分の通貨別組入比率 (2021年7月末)



- ・比率は、「国内債券通貨プラス」における外国為替予約取引および直物為替先渡取引（NDF）等の合計により計算しており、通貨別にみた実質比率を表します。
- ・米ドルにはNDFにかかるポジションが含まれます。

▶三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

ファンド全体のデュレーション（平均回収期間や金利感応度）については中立を基本に調整しました。年限別構成については、中期ゾーンのアンダーウェイト・超長期ゾーンのオーバーウェイトを基本に調整しました。

債券種別構成については、日銀による社

債買入オペや投資家の資金余剰感を背景とした需給関係から、一般債のスプレッド（国債に対する金利差）は横ばい圏で推移すると判断し、相対的にスプレッド妙味のある事業債および円建外債のオーバーウェイト、スプレッド妙味の乏しい地方債および政府保証債のアンダーウェイトを維持しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

| 項目 | 第109期 | 第110期 | 第111期 | 第112期 | 第113期 | 第114期 |
|--------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 2021年2月16日～ 2021年3月15日 | 2021年3月16日～ 2021年4月15日 | 2021年4月16日～ 2021年5月17日 | 2021年5月18日～ 2021年6月15日 | 2021年6月16日～ 2021年7月15日 | 2021年7月16日～ 2021年8月16日 |
| 当期分配金 (対基準価額比率) | 1 (0.011%) | 1 (0.011%) | 1 (0.011%) | 1 (0.011%) | 1 (0.011%) | 1 (0.011%) |
| 当期の収益 | 1 | 1 | － | 0 | － | 1 |
| 当期の収益以外 | － | － | 1 | 0 | 1 | － |
| 翌期繰越分配対象額 | 38 | 41 | 40 | 39 | 38 | 39 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 国内債券通貨プラス

プラスアルファ部分 (通貨戦略運用部分)

「金利水準」「市況動向」「割安度」の観点から計量分析によって算出される各通貨の魅力度を基に、新興国を含む世界各国の通貨へ投資を行い、相場環境にかかわらず中長期的な収益の獲得をめざします。

安定運用部分 (国内債券運用部分)

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券への投資を通じて、国内債券への実質投資を行う方針です。

▶ 三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位を維持する方針です。

ファンド全体のデュレーションは、当面ベンチマーク対比中立を基本に機動的にリスク度合いを調整する方針です。

債券種別構成については、事業債および円建外債をベンチマーク対比多めの保有を維持する方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

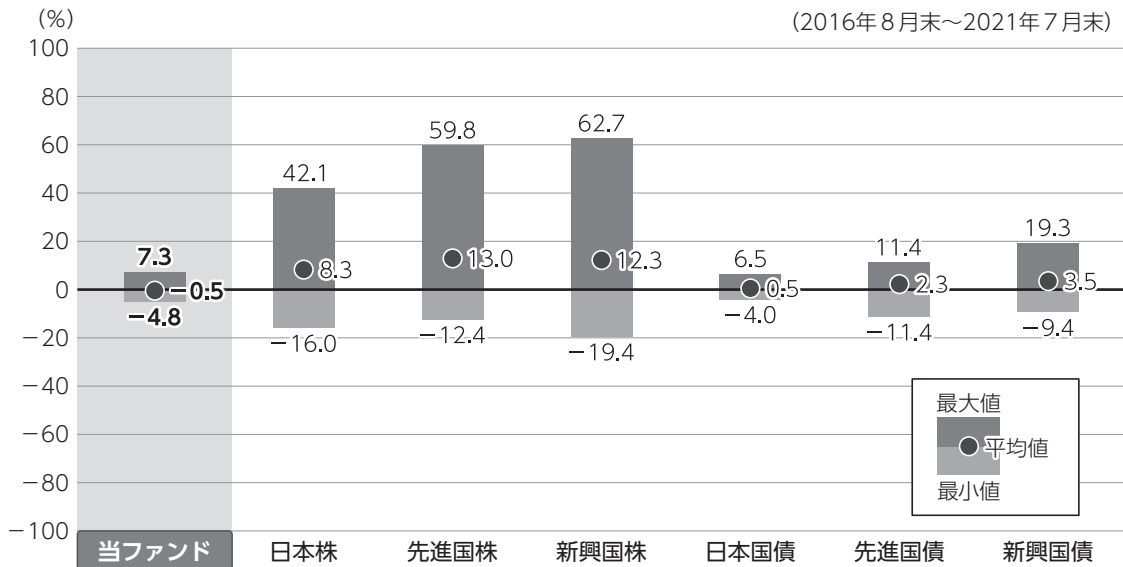
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufig.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

| | |
|--------|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合／特殊型 |
| 信託期間 | 2022年2月15日まで（2012年2月14日設定） |
| 運用方針 | 三菱UFJ国内債券アクティブマザーファンド受益証券を通じてわが国の公社債を主要投資対象とするとともに、外国為替予約取引および直物為替先渡取引等を活用することにより、利子収益の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざします。マザーファンド受益証券への投資比率は、市況動向等に基づき、信託財産の純資産総額に対して50～100%の範囲内で配分します。クオオンツ（定量分析）モデルを活用し、外国為替予約取引および直物為替先渡取引等を用いることで、新興国を含む世界各国の通貨の買建て（ロング・ポジション）と売建て（ショート・ポジション）を構築し、相場環境にかかわらず中長期的な収益の獲得をめざします。実質的な外国為替予約取引および直物為替先渡取引等の合計額（同一通貨においては、ロング・ポジションとショート・ポジションの差額とします。）は、信託財産の純資産総額の範囲内とします。 |
| 主要投資対象 | <p>■当ファンド</p> <p>三菱UFJ国内債券アクティブマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、外国為替予約取引および直物為替先渡取引等を主要取引対象とします。なお、当ファンドでわが国の公社債等に直接投資することがあります。</p> <p>■三菱UFJ国内債券アクティブマザーファンド</p> <p>わが国の公社債を主要投資対象とします。</p> |
| 運用方法 | わが国の公社債を実質的な主要投資対象とするとともに、外国為替予約取引および直物為替先渡取引等を活用することにより、利子収益の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざします。 |
| 分配方針 | 経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。なお、第5計算期末までの間は、収益の分配は行いません。 |

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2016年8月から2021年7月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

| | |
|------|---------------------------------|
| 日本株 | 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) |
| 先進国株 | MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) |
| 新興国株 | MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) |
| 日本国債 | NOMURA-BPI (国債) |
| 先進国債 | FTSE世界国債インデックス (除く日本) |
| 新興国債 | JPMorgan Global Diversifaid |

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2021年8月16日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

| ファンド名 | 第114期末 2021年8月16日 |
|------------------------|----------------------|
| 三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド | 89.1% |

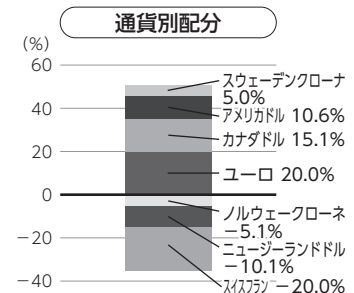
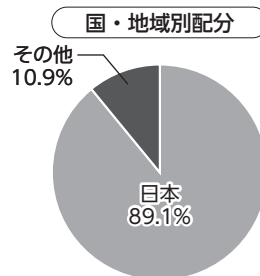
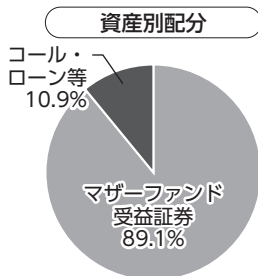
※比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

| 項目 | | 第109期末 | 第110期末 | 第111期末 | 第112期末 | 第113期末 | 第114期末 |
|------------|-----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | 2021年3月15日 | 2021年4月15日 | 2021年5月17日 | 2021年6月15日 | 2021年7月15日 | 2021年8月16日 |
| 純資産総額 | (円) | 1,537,593,275 | 1,439,858,116 | 1,401,422,944 | 1,365,673,403 | 1,338,773,059 | 1,301,961,708 |
| 受益権口数 | (口) | 1,649,395,575 | 1,541,333,955 | 1,501,707,685 | 1,463,366,964 | 1,438,969,375 | 1,398,532,060 |
| 1万口当たり基準価額 | (円) | 9,322 | 9,342 | 9,332 | 9,332 | 9,304 | 9,309 |

※当作成期間中（第109期～第114期）において追加設定元本は 465,886円
同解約元本は270,548,678円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

※通貨別配分比率は、「国内債券通貨プラス」における外国為替予約取引および直物為替先渡取引（NDF）等の合計により計算しており、通貨別にみた実質比率を表します。米ドルにはNDFにかかるポジションが含まれます。

591201

2021年2月15日現在

組入上位ファンドの概要

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

基準価額の推移

2020年2月17日～2021年2月15日



1万口当たりの費用明細

2020年2月18日～2021年2月15日

| 項目 | 当期 | |
|----------|-------|---------|
| | 金額(円) | 比率(%) |
| (a)その他費用 | 0 | 0.000 |
| (保管費用) | (0) | (0.000) |
| 合計 | 0 | 0.000 |

期中の平均基準価額は、14,682円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：117銘柄)

| 銘柄 | 種類 | 国・地域 | 業種/種別 | 比率(%) |
|-----------------------|----|------|-------|-------|
| 1 第354回利付国債(10年) | 債券 | 日本 | 国債 | 2.2 |
| 2 第360回利付国債(10年) | 債券 | 日本 | 国債 | 2.2 |
| 3 第166回利付国債(20年) | 債券 | 日本 | 国債 | 1.9 |
| 4 第3回マラヤン・バンキング(2019) | 債券 | 日本 | 社債 | 1.7 |
| 5 第7回イオンフィナンシャルサービス | 債券 | 日本 | 社債 | 1.7 |
| 6 第6回マラヤン・バンキング | 債券 | 日本 | 社債 | 1.7 |
| 7 第162回利付国債(20年) | 債券 | 日本 | 国債 | 1.6 |
| 8 第130回利付国債(20年) | 債券 | 日本 | 国債 | 1.5 |
| 9 第153回利付国債(20年) | 債券 | 日本 | 国債 | 1.3 |
| 10 第152回利付国債(20年) | 債券 | 日本 | 国債 | 1.3 |

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

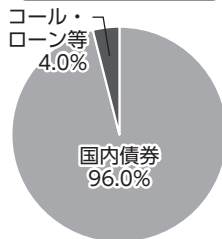
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用

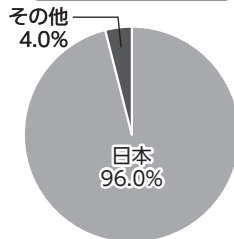
報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等

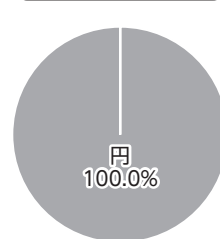
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出して公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。





三菱UFJ国際投信